



「生」と納税・サービスの循環

大田区立大森第十中学校 三年 田中 然

つい先日、祖父が亡くなりました。突然の入院から1ヶ月で、あつという間の出来事でしたが、その短い間に、また亡くなった後も手続きや「お金」にかかわることがたくさんあって、父が忙しそうに動いていました。いままで一度も利用した事がなかった国や市のサービスを利用する事も増えていき、税金によってまかなわれている、いろいろなことを考えるよい機会となりました。

まず、祖父が元気だった時は認知症の祖母と2人で暮らしていました。体の調子が悪くなっていき、祖母は週に2日介護施設に通ったり、美容師さんに来てもらって髪を家で切ってもらったり、歯医者さんに訪問して診てもらって「市のサービス」を受けました。その後、祖父の体調が悪くなると、家でみられなくなり、祖母の預け先について考えなくてはいけない時がきました。たくさん介護施設をまわって、祖母にぴったりの場所を見つけることができました。その際も、市にいるケアマネージャーさんという介護のプロが相談にのってくれて適切なアドバイスをくれたと後から聞きました。その2日後に祖父が家で倒れてしまって救急車で運ばれました。このような急病の時に利用する救急車も税金のおか

げで無料と聞いて驚きました。

僕の両親は共働きで、よく「税金が高い」と話していました。今までは「納税って大変な事なのかな?」としか思いませんでした。しかし、今回の祖父母のケースを見て、体調はいつ変わるか分からないから、そういう時はこうしたサービスを利用しなければならぬのではないかなと思いました。納税とは、いわば老後や困った時に利用するサービスの「前払い」のようなものなのかなと僕は考えました。また、まだ中学生である我々は、わずかばかりの消費税しか払わず、学校に行ったり図書を利用したりしている、税金を使っている立場にあるのではないかなと思います。大人になったらどうして使ってきた分の「後払い」に加えて、今後のための「前払い」を払わなくてはなりません。そう考えると、「税金」は人間の一生で、「受ける↓払う↓受ける」というサイクルで成り立っているのだと思いました。

社会人になってからの納税の期間だけを切り取って考えてしまうと、国や区にたくさんもっていかれてしまうというネガティブな気持ちになってしまいますが、それはつまり、幼い頃借りた借金を返して、後のために貯金をするといった感じで、長い目で見ると自分にも深く関わっていった、たくさんお世話になっているのだということを感じました。少子高齢化によって働き手が減っている中で、提供するサービスと受けられるサービスについて深く考えていかなければ、近い将来、このサイクルが破綻してしまうかもしれません。いつかの日のために、これについて今のうちから考えなければいけないと思いました。